

# 胃癌・食道癌登録レジメン一覧

No.	レジメン名
0026	<a href="#">S-1+CDDP+Trastuzumab</a>
0027	<a href="#">S-1+Trastuzumab</a>
0028	<a href="#">CAPOX + Trastuzumab 療法</a>
0029	<a href="#">ニボルマブ療法(胃癌)</a>
0030	<a href="#">ニボルマブ療法 monthly(胃癌)</a>
0031	<a href="#">エンハーツ単独療法</a>
0032	<a href="#">SOX+Trastuzumab</a>
0033	<a href="#">SOX+ニボルマブ</a>
0034	<a href="#">CAPOX+ニボルマブ</a>
0035	<a href="#">FOLFOX+ニボルマブ</a>
0036	<a href="#">FP+ニボルマブ</a>
0037	<a href="#">FP+ニボルマブ monthly</a>
0038	<a href="#">ニボルマブ triweekly+イピリムマブ 療法(食道癌)</a>
0039	<a href="#">ニボルマブ biweekly+イピリムマブ療法(食道癌)</a>

# S-1+CDDP+Trastuzumab

対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース







催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日									
							1	2	3	4	...	14	...	21		
RP.1		ソルアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分	○									
RP.2		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	120分	○									
RP.3		ソルアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分	○									
RP.4		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	120分	○									
RP.5		ソルアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分	○									
RP.6		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	120分	○									
RP.7		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									
		フロセミド	20mg													
RP.8		生理食塩液	250mL	点滴静注	側管		○									
	○	トラスツズマブ		投与時間: 初回:8mg/kg【90分】.2回目以降:6mg/kg【30分】												
				Rp.2の側管から投与 投与中はメインを止める												
RP.9		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分	○									
		パロノセトロン	0.75mg													
		デキサート	9.9mg													
RP.10		生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	120分	○									
	○	シスプラチン	60mg/m <sup>2</sup>	Rp.4の側管から投与												

【裏面にも記載あり】

<参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	 8

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

# S-1+CDDP+Trastuzumab







対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日									
							1	2	3	4	...	14	...	21		
RP.11		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分		○	○							
		デキサート	6.6mg													
RP.12		ソルアセトF	1000mL	点滴静注	メイン	240分		○	○							
内服	○内服	エスワン		経口		1日2回	←-----→									
				1.25㎡未満:40mg/回、1.25~1.50㎡:50mg/回、1.50㎡以上:60mg/回												

<参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメンドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	 8

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。



# CAPOX + Trastuzumab 療法

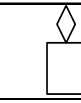




対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日															
							1	2	3	4	...	14	...	21								
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○															
RP.2	○	生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○															
		トラスツズマブ		投与時間: 初回:8mg/kg【90分】、2回目以降:6mg/kg【30分】																		
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○															
		パロノセトロン	0.75mg																			
RP.4	○	5%ブドウ糖液	500mL	点滴静注	メイン	120分	○															
		オキサリプラチン	130mg/m <sup>2</sup>																			
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○															
内服	○内服	カベシタピン	1000mg/m <sup>2</sup>	経口		1日2回																
				Day1夕 ←→ Day15朝																		

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
抗がん薬投与前					
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

●制吐療法の一様な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。





# エンハーツ単独療法(胃癌)






対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日															
							1	2	3	4	5	...	21									
RP.1		グラニセトロン	50mL	点滴静注	メイン	30分	○															
		デキサート	6.6mg				インラインフィルター使用															
RP.2		5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	メイン	全開	○															
RP.3		5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	メイン	投与時間:初回90分、2回目以降30分、遮光、調製から投与終了までを4時間以内に行う	○															
	○	エンハーツ	6.4mg/kg																			
		蒸留水	20mL																			
RP.4		5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	メイン	全開	○															
							CVポート使用時は生食シリンジによるロックを行う															

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
抗がん薬投与前					
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。



# SOX + Trastuzumab






対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日														
							1	2	3	4	...	14	...	21							
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○														
RP.2	○	生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○														
		トラスツズマブ		投与時間: 初回:8mg/kg【90分】、2回目以降:6mg/kg【30分】																	
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○														
		パロノセトロン	0.75mg																		
RP.4	○	5%ブドウ糖液	500mL	点滴静注	メイン	120分	○														
		オキサリプラチン	100mg/m <sup>2</sup>																		
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○														
内服	○内服	エスワン		経口		1日2回															
				1.25m <sup>2</sup> 未満:40mg/回、1.25~1.50m <sup>2</sup> :50mg/回、1.50m <sup>2</sup> 以上:60mg/回																	

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。

# SOX+ニボルマブ






対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日														
							1	2	3	4	...	14	...	21							
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○														
		パロノセトロン	0.75mg	インラインフィルター使用																	
		デキサート	6.6mg																		
RP.2	○	生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○														
		オプジーボ	360mg/body																		
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○														
RP.4		5%ブドウ糖液	500mL	点滴静注	メイン	120分	○														
	○	オキサリプラチン	100mg/m <sup>2</sup>																		
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○														
内服	○内服	エスワン		経口		1日2回															
					1.25m <sup>2</sup> 未満:40mg/回、1.25~1.50m <sup>2</sup> :50mg/回、1.50m <sup>2</sup> 以上:60mg/回																

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
抗がん薬投与前					
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。

# CAPOX＋ニボルマブ

対象疾患	胃癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日								
							1	2	3	4	...	14	...	21	
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○								
		パロノセトロン	0.75mg	インラインフィルター使用											
		デキサート	6.6mg												
RP.2	○	生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○								
		オプジーボ	360mg/body												
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○								
RP.4	○	5%ブドウ糖液	500mL	点滴静注	メイン	120分	○								
		オキサリプラチン	130mg/m <sup>2</sup>												
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○								
内服	○内服	カベシタビン	1000mg/m <sup>2</sup>	経口		1日2回									
				Day1夕 ↔ Day15朝											

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
抗がん薬投与前					
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	(9.9mg)				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。

# FOLFOX+ニボルマブ






対象疾患	胃癌
投与間隔	2週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日											
							1	2	3	4	...	14						
RP.1		生理食塩液	100mL	中心静脈	メイン	30分	○											
		パロノセトロン	0.75mg	インラインフィルター使用														
		デキサート	3.3mg															
RP.2	○	生理食塩液	100mL	中心静脈	メイン	30分	○											
		オプジーボ	240mg/body															
RP.3		生理食塩液	50mL	中心静脈	側管	30分	○											
RP.4	○	5%ブドウ糖液	250mL	中心静脈	メイン	120分	○											
		レボホリナート	200mg/m <sup>2</sup>															
RP.5	○	5%ブドウ糖液	250mL	中心静脈	側管	120分	○											
		オキサリプラチン	85mg/m <sup>2</sup>	レボホリナートと同時投与														
RP.6	○	5%ブドウ糖液	100mL	中心静脈	側管	全開	○											
		フルオロウラシル	400mg/m <sup>2</sup>															
RP.7	○	生理食塩液	100mL	中心静脈	メイン	指定なし	○											
		フルオロウラシル	2400mg/m <sup>2</sup>	インフューザーポンプ使用														

## <参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
抗がん薬投与前					
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。

# FP+ニボルマブ







対象疾患	食道癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日												
							1	2	3	4	5	...	15	...	28				
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○							○					
RP.2	○	生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○							○					
		オプジーボ	240mg/body		インラインフィルター使用														
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○												
RP.4	○	生理食塩液	500mL	点滴静注	メイン	24時間	○	○	○	○	○								
		フルオロウラシル	800mg/m <sup>2</sup>																
RP.5		ソルデム3A	1000mL	点滴静注	側管	150分	○												
		硫酸マグネシウム	8mL																
RP.6		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分	○												
		パロノセトロン	0.75mg																
RP.7	○	生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	150分	○												
		シスプラチン	80mg/m <sup>2</sup>		投与中はメインを止める														
RP.8		ソルデム1	1000mL	点滴静注	側管	240分	○												
RP.9		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分		○	○	○									
		デキサート	6.6mg																
RP.10		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開							○	○					

## <参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

# FP+ニボルマブ monthly







対象疾患	食道癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日														
							1	2	3	4	5	...	28								
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○														
RP.2	○	生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○														
		オプジーボ	480mg/body																		
				インラインフィルター使用																	
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○														
RP.4	○	生理食塩液	500mL	点滴静注	メイン	24時間	○	○	○	○	○										
		フルオロウラシル	800mg/m <sup>2</sup>																		
RP.5		ソルデム3A	1000mL	点滴静注	側管	150分	○														
		硫酸マグネシウム	8mL																		
RP.6		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分	○														
		パロノセトロン	0.75mg																		
		デキサート	9.9mg																		
RP.7	○	生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	150分	○														
		シスプラチン	80mg/m <sup>2</sup>																		
		投与中はメインを止める																			
RP.8		ソルデム1	1000mL	点滴静注	側管	240分	○														
RP.9		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分		○	○	○											
		デキサート	6.6mg																		
RP.10		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開							○								

<参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

●制吐療全体像があるが応じた望まお

●各薬剤ダイヤで示し

# ニボルマブ triweekly+イピリムマブ療法(食道癌)

対象疾患	進行・再発食道癌
投与間隔	6週1コース

催吐リスク	最小度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日															
							1	...	...	22	...	...	42									
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○															
RP.2		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○															
	○	オブジーボ	360mg/body	インラインフィルター使用、生食36mL抜く																		
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○															
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○															
	○	ヤーボイ	1mg/kg	インラインフィルター使用、生食30mL抜く																		
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○															

### <参考>最小度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

最小度催吐性リスクの注射抗がん薬に対する制吐療法					
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
	通常予防的な制吐療法は推奨されない。				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

# ニボルマブbiweekly+イピリムマブ療法(食道癌)

対象疾患	進行・再発食道癌
投与間隔	6週1コース

催吐リスク	最小度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日													
							1	...	...	15	...	...	29	...	...	42				
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○				○				○					
RP.2		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○				○				○					
	○	オプジーボ	240mg/body	インラインフィルター使用																
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○													
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○													
	○	ヤーポイ	1mg/kg	インラインフィルター使用、生食30mL抜く																
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○				○				○					

## <参考>最小度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

### 最小度催吐性リスクの注射抗がん薬に対する制吐療法

1日目 2日目 3日目 4日目 5日目  
抗がん薬投与前

通常予防的な制吐療法は推奨されない。					

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値